

道徳的判断力を育てる指導の工夫 —道徳の時間と体験活動との関わりを通して—

道徳班 内藤裕之（小学校教諭）

研究の概要

児童は、道徳的価値に迫る正しい発言をしたり、ワークシートに自分の思いを書いたりすることができる。しかし、生活場面においては、良いと思っていても実行に移せない場面も見られた。そこで、発問の工夫や話し合い活動を通して道徳の時間に学習した道徳的価値の意味や大切さを体験活動に生かし、その場に応じたより良い判断をする力を育てたいと考えた。

道徳の時間

中心発問

主人公の思いについて考える

話し合い活動
「どうしてそう思うの」「でも、こう思う」などの考えの交流



実践1 「言葉のおくりもの」 2-（3）信頼友情・男女の協力



「一郎は、すみ子になんて話しかけるかな？その理由も書いてみよう。」



「ありがとう」と言うと思う。すみ子は、もとの学級に戻そうとしているから



「ごめんね」と言うと思う。あんなことを言って後悔していると思うから。

実践2 「銀のしょく台」 2-（4）寛容・謙虚



「司教のどんな思いが込められていたのかな？その理由も書いてみよう。」



でも、もともとは、貧しい人の物だったから、それを貧しい人に返そうという思いがあると思う。

食器を売って貧しい生活を抜けだして幸せな生活を送ってほしい。



体験活動

道徳的価値の意味や大切さを体験活動に生かす



その場に応じたよりよい判断をする力

修学旅行

グループ行動（男女混合班）では、一人一人の意見を取り入れ計画を立てるなど、男女仲良く協力し合う様子が見られた

シヨアの時間を確認しよう。



お昼ご飯の前にシヨアを見よう。

なかよしタイム

1・3・6年生の縦割り集団で行われる。低学年に合わせた行動や広い心を持って接することができるようになった児童が増えた

オニが分かるようにビブスを付けよう。



一年生は、ゆっくり追いかけてよう。

的確な道徳的判断力を持った児童

成果

- 主人公の行動や心情を捉えた発問から、主人公のおかれた状況や立場を把握し、主人公の思いについて考えることができた。
- 話し合い活動をグループで行ったことで、一人一人が自分の考えを発表したり、友達の考えを聞いたりして、自分の考えを再考することができた。
- 体験活動では、相手の状況を考えた臨機応変な行動が多く見られるようになった。

課題

- 話し合い活動では、道徳的価値を深めるために、話し合いの視点を示すことが必要である。
- 体験活動にかかわるように、道徳の時間の授業を行ったが、体験活動の振り返りを道徳の授業に生かすなどの工夫をしていく必要があると考える。